

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495300301	事業の開始年月日	平成26年12月1日
		指定年月日	平成26年12月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	宇奈根グループホーム		
所在地	（〒213-0031） 神奈川県川崎市高津区宇奈根633-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和6年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

イベントにて、ご利用者様にも手伝って頂きながらお菓子を手作りしたり、季節の飾り付けを一緒に行い季節を感じて頂いています。
地域の行事にもご利用者様と一緒に参加し、地域交流を深める他、広報活動として事業所の宣伝をしております。
若いスタッフが多く、ご利用者様の気持ちの寄り添いながら、明るく楽しい空間と適切な支援に努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年1月8日	評価機関 評価決定日	令和7年4月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR南武線の「久地」駅から徒歩12分程の住宅地にあり、日当たりが良く付近は静かな環境です。鉄骨造3階建て建物の2階、3階にあり、1階には同一法人が運営する看護小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。法人は、介護教育事業を基点に全国で幅広く多数の介護事業を展開しています。

<優れている点>

「あなたの立場に立ち、尊重します。安心・安全・穏やかな生活を支えます。地域との輪を大切にします。⇒笑顔」の理念のもと、利用者の意向に沿ったケアに取り組んでいます。利用者目線を合わせて話し、笑顔のある暮らしを大切にしています。法人の医療体制と連携した訪問診療など安心の体制で支援しています。食事は冷凍・冷蔵品を利用し調理して暖かい食事を提供し、職員も利用者と一緒に食事をしています。時々、職員の創意工夫で手作りの料理を追加提供し喜ばれています。今年度、諸物価高騰の状況の中、管理者は毎月の生活用品などの調達先を検討して低コスト化を図るなど、経営手法である「アメーバ経営」を学び実践して事業所運営をしています。管理者の夜勤は月2回までとし、利用者との触れ合いを大事にしています。

<工夫点>

非常勤職員も含めた全職員対象にe-ラーニング研修制度をスタートし、人材育成に注力しています。介護福祉士資格を取得した職員が多く、優れたケアに努めています。晴れた日は散歩など外出支援を午後3時半から実施して支援に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	宇奈根グループホーム
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ間での理念の共有はできており、玄関に掲示しているが、実践につなげるための工夫はもっと必要だと思っている。	昨年新しい理念を職員とともに検討し、現行の理念を継続することを決めています。「あなたの立場に立ち尊重します。安心・安全・穏やかな生活を支え、笑顔で生活」などを主旨とした理念を掲げ、入居者と目線を合わせて話をし、本人の意向に沿った支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板やボランティア活動への参加を通して事業所の取り組みを伝える一方で、地域の方からは自治体のごみ処理方法等を教えて頂いたり協力関係が築けている。	毎年元旦には近隣の氷川神社に車いすの利用者も参加して初詣に行っています。町内会行事の納涼祭に遊びに行き、焼き鳥やかき氷を食べたり、多少アルコールを飲んだりして楽しんでいます。年末に、町内会のパイプ椅子を借り、開設10周年記念イベントを実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	よろず相談窓口のポスター掲示をしており、姿勢は伝えているが、実践にはつながっていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、報告や話し合いを行っている。	元自治会々長のオーナーや利用者家族、看護小規模多機能型居宅介護事業所管理者などが参加して2ヶ月ごとに実施しています。行事報告や事故などの活動状況を報告し、話し合っています。オーナーからはミカンやぶどう、柿などの果物狩りの情報などを伝えてもらっています。	会議には自治会々長や民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て、更なる地域社会との交流・情報収集を行うことが期待されます。関係各位との協力体制の確立が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険の更新や生活保護の方のご相談等の際に取り組みを伝えたり、パンフレットをお持ちしながら状況や取り組みを伝えている。	高津区地域みまもり支援センター保護課の職員とは生活保護の関連で協力関係を築いています。「オンライン手続かわさき（e-KAWASAKI）」により高齢者事業推進課と新型コロナ対策のマスク、手袋、ガウンなどや、実務者研修受講料の全額補助などの支援を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会の実施、研修にて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のない介護に取り組み、身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごとに実施しています。委員は施設長である管理者、副施設長、ユニット長2人の4人です。利用者が椅子からずり落ちる危険性への対応策や、ベッドのサイドレールの設置方法などを具体的に話し合い、身体拘束にならない支援に取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な委員会の実施、研修にて虐待をしないケアに取り組んでいる。また、日頃のケアで虐待に繋がらないようスタッフ間でも声を掛け合い注意している。	虐待防止委員会は、身体拘束委員会と同じメンバーで同時開催しています。職員は法人のeラーニング研修で学び、確認テストを受けて理解度を深めています。経験の浅い職員の対応や車いすを押すスピードなども注意しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は後見制度申請の際の協力や必要と思われる方へ情報提供する等実施しているが、職員の周知は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の読み合わせや、ご本人様やご家族様にその場で出なかった疑問なども適宜対応するなど、理解・納得・信頼して頂けるよう対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様本人からの要望や、面会時やアンケート等で頂いたご家族様の意見はミーティングにて検討・実施し反映している。	利用者の意見は日々のケアで、また家族からの意見は面会時や電話で聞いています。現在面会の制限はありません。コロナ禍が続く中で車いすを利用する状況になった利用者に対し、家族からの要望で歩行器を使用して歩く生活にケア内容を変えるなど、要望に応じて支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期ミーティングにて実施している。	管理者は、毎月訪問する法人ブロック長と話し合い、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。職員の要望で入浴拒否者に対し通常実施していない日曜日入浴を許可したり、職員の提案で薬局を変えるなど、職員の意見や提案を運営に反映させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ相談窓口の設置、スタッフアンケートの実施、適宜就業規則の変更等が実施されている。	賃金UPに取り組むなど、働き甲斐のある職場環境づくりに取り組んでいます。繁忙でも残業は10時間以内です。法人は職員アンケートを実施し、全法人内のアンケート結果が公開されています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験や立場には関係ないが、マイスター制度や入職時から適宜研修が実施され、受講状況の報告がされている。	法人は今年度から非常勤職員も含めた全職員対象のeラーニング研修制度をスタートして職員育成に取り組んでいます。職員は受講後研修レポートを提出しています。介護福祉士資格取得に取り組み、多数の職員がスキルUPに繋がっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他同業者との交流の機会は設けられていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションを取りながら、ご本人様の要望などを汲み取り、情報共有し関係構築に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学時、契約時等に安心して頂けるよう、不安な点や困り事などに耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご自身とご家族の困りごとを伺い、必要と思われることを話し合いながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事や趣味等の日常生活で出来る事は、出来る限り実施して頂ける環境作りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や外出は積極的にお勧めすると同時に、ご家族のご希望等を伺った際には、スタッフ間で周知し、できる限りご希望に添えるよう話し合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙のご要望には、ご本人様から発信する物も届いたものも、全てお応えしている。	家族の話や入居時のアセスメント、訪問事業所からの情報などで馴染みの場所を把握しています。家族と年賀状を交換している利用者には宛名書きの支援をしています。コンビニエンスストアやドラッグストアなどでの買い物で昔馴染みの菓子や日用品を購入しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お話の合う方同士の席を近くし、会話ができるようにしている。 また、一緒に出来るレクリエーションを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご住所を変更されるまでに届いた書面は、都度簡単な手紙をつけて転送し、様子を伺うようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	直接仰れる方には言葉で伺い、仰ることが出来ない方には日々の言動から、出来る限り把握するように努めている。	入居時のアセスメントや家族からの情報などで利用者の意向の把握をしています。利用者との関わりを多く持つことで行動や表情、発する言葉を汲み取り、職員間で共有しています。耳の遠い利用者には筆談やジェスチャーで思いや意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	出身地や仕事、趣味等伺ったことをスタッフ間で情報交換し、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の様子を記録に残し、申し送りにてその日の状況を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の会議でご家族のご希望や現状のカンファを実施し、結果を反映した計画書を作成している。	本人、家族の意向を確認し、アセスメントを経て職員、医療関係者と情報を共有して現状に即した介護計画を作成しています。短期計画3ヶ月、長期計画6ヶ月でモニタリングを行い、実施状況や今後の対応を評価して介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットの記録や申し送りノートへ記載し情報を共有している。 即時実践できることは実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム単体での多機能化は出来ていませんが、見学にいらした方のニーズにより、小規模多機能等の他サービスのお勧めもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会への参加を通して、地域資源の把握に努めている。 地域のパン屋での定期的なパンの購入、ドラッグストアへの買い物等を実施している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の付き添い対応、ご希望により訪問眼科やマッサージのご紹介等支援している。	利用者、家族の同意を得て協力医療機関の医師をかかりつけ医として訪問診療を受診しています。緊急時に備えて24時間オンコール体制を取っています。専門医の受診は基本的には家族対応ですが、緊急の場合は職員が行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護と都度必要に応じて依頼することで実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や治療方針説明への同席、お見舞いに伺った際の情報交換等を実施している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や看取りに関する指針のご説明と同意を頂いている。また都度必要に応じて医師と連携しながら意思確認を行っている。	契約時に「重度化対応及び看取りに関する指針」で終末期に向けての事業所の方針を説明し、同意をもらっています。看取りに入る際は再度、意思確認をして看取り介護に移行します。職員は看取り研修を受け、医療関係者、職員が連携して支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所にフローチャートを掲示し研修も実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	訓練の実施、BCPの策定と会議での周知を行っている。地域との協力体制はまだ弱いと感じているので、行事への参加を通して築く努力をしている。	年2回、利用者も参加して夜間想定を含む避難訓練を行っています。各職員に役割を割り振り、近隣に住む職員は緊急時の初動対応を担っています。感染症と非常災害の業務継続計画を作成し、研修と訓練を行っています。災害用備蓄品3日分はリスト化し2階に保管しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	訪室の際に必ずドアノックをする、馴れ馴れしすぎない言葉遣いを心掛けながら、人生の先輩として尊重している。	入職時研修で、接遇とプライバシーの保護について研修を受けています。利用者を人生の先輩として、人格を傷つけないよう、上から目線にならないよう、言葉遣いに気をつけています。入居者が不快な気持ちを持つことなく過ごせるように心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り傾聴し、希望に沿うようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	必要に応じて入浴日を変更したり食事の時間をずらしたり等の支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	長い髪がお好きな方の髪型やその日の気分にあった服装等ができるよう支援している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には食事準備や片付けを手伝って頂いている。 毎月のお楽しみ食事会では、ご希望を伺ってメニューを決めるようにしている。	食事の前に口腔体操を行い、誤嚥を予防しています。職員も同じ席で同じ食事を楽しんでいます。食事の片付けなどを自分の仕事として役割を担っている利用者もいます。毎月のお楽しみ食事会や手作りおやつなどに利用者の希望を取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録をつけ、水分が少ない方にはお好みに合った飲み物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方の状態にあわせた声掛けや支援をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	記録や情報共有でパターンや習慣を把握し支援している。	トイレでの排泄を大切にしています。歩ける人でも夜間はポータブルトイレを使用しています。歩行不安定な利用者は付き添いや手引歩行で、車いすの人は2人介助でトイレで排泄をしています。下着の着脱など声掛けで出来ることは自分でしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取の声掛け、腹部マッサージや体操等を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご希望により午後や日曜日に入浴を実施している。状態や拒否等で入浴が出来ない場合も足浴や清拭にて支援している。	週2回の入浴はできるだけ浴槽で暖まるようにしています。拒否のある人には他の職員が対応し、それでも拒否の場合は利用者の気持ちを確認しながら支援しています。個人持ちのシャンプーを使用したり、ゆず湯などでゆったりした時間を過ごしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	快適な居室の温度設定、個々の就寝時間に合わせた声掛け、誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	都度医師の助言を受けながら、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々のレクリエーションや散歩、季節のイベント等で支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日には積極的に散歩へ言って頂ける様支援している。 遠方へは、ご家族の支援がある方のみとなってしまっている。	午後、車いすの利用者も一緒に30分位近くの氷川神社やまちかど公園に散歩に行き、気分転換を図っています。コンビニエンスストアで飴を買ったり、ドラッグストアで日用品を購入することもあります。移動パン屋で好きなパンを購入しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持はお断りしています。 出来る方には、一緒に買い物へ行った際に必要額をお渡しし、会計して頂くようにしていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃるし、操作方法の支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダイニングや廊下にご入居者様方で作って頂いた季節の飾りを飾っている。	日当たりの良いリビングは利用者の多くが楽しく集う場所になっています。掃除は職員が行っていますが、手伝う利用者もいます。利用者と職員で一緒に作った今年の絵馬や紙粘土で作ったミニサイズのへびの置物も飾っています。お正月らしい雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合うご入居者様の席を近くしたり、ソファを設置し、ゆっくり過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身やご家族様の希望にあったレイアウトに協力したり、写真や飾りをつけて頂いている。	備え付けはエアコン、介護用ベッド、クローゼット、チェスト、防災カーテンです。家族の写真や飾り物で居心地よくしています。家族と居室担当でレイアウトし、動線を確保したり環境整備をして利用者が自立した日常生活ができるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路にモノを置かない、ご自身で歩かれるのを邪魔することなく見守る等の工夫をしている。		

事業所名	宇奈根グループホーム
ユニット名	3 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ間での理念の共有はできており、玄関に掲示しているが、実践につなげるための工夫はもっと必要だと思っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板やボランティア活動への参加を通して事業所の取り組みを伝える一方で、地域の方からは自治体のごみ処理方法等を教えて頂いたり協力関係が築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	よろず相談窓口のポスター掲示をしており、姿勢は伝えているが、実践にはつながっていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、報告や話し合いを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険の更新や生活保護の方のご相談等の際に取り組みを伝えたり、パンフレットをお持ちしながら状況や取り組みを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会の実施、研修にて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な委員会の実施、研修にて虐待をしないケアに取り組んでいる。また、日頃のケアで虐待に繋がらないようスタッフ間でも声を掛け合い注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は後見制度申請の際の協力や必要と思われる方へ情報提供する等実施しているが、職員の周知は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の読み合わせや、ご本人様やご家族様にその場で出なかった疑問なども適宜対応するなど、理解・納得・信頼して頂けるよう対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様本人からの要望や、面会時やアンケート等で頂いたご家族様の意見はミーティングにて検討・実施し反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期ミーティングにて実施している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ相談窓口の設置、スタッフアンケートの実施、適宜就業規則の変更等が実施されている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験や立場には関係ないが、マイスター制度や入職時から適宜研修が実施され、受講状況の報告がされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他同業者との交流の機会は設けられていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションを取りながら、ご本人様の要望などを汲み取り、情報共有し関係構築に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学時、契約時等に安心して頂けるよう、不安な点や困り事などに耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご自身とご家族の困りごとを伺い、必要と思われることを話し合いながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事や趣味等の日常生活で出来る事は、出来る限り実施して頂ける環境作りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会や外出は積極的にお勧めすると同時に、ご家族のご希望等を伺った際には、スタッフ間で周知し、できる限りご希望に添えるよう話し合っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙のご要望には、ご本人様から発信する物も届いたものも、全てお応えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お話を合う方同士の席を近くし、会話ができるようにしている。 また、一緒に出来るレクリエーションを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご住所を変更されるまでに届いた書面は、都度簡単な手紙をつけて転送し、ご様子を伺うようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	直接仰れる方には言葉で伺い、仰ることが出来ない方には日々の言動から、出来る限り把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	出身地や仕事、趣味等伺ったことをスタッフ間で情報交換し、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の様子を記録に残し、申し送りにてその日の状況を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の会議でご家族のご希望や現状のカンファを実施し、結果を反映した計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットの記録や申し送りノートへ記載し情報を共有している。 即時実践できることは実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム単体での多機能化は出来ていませんが、見学にいらした方のニーズにより、小規模多機能等の他サービスのお勧めもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会への参加を通して、地域資源の把握に努めている。 地域のパン屋での定期的なパンの購入、ドラッグストアへの買い物等を実施している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の付き添い対応、ご希望により訪問眼科やマッサージのご紹介等支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護と都度必要に応じて依頼することで実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や治療方針説明への同席、お見舞いに伺った際の情報交換等を実施している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や看取りに関する指針のご説明と同意を頂いている。また都度必要に応じて医師と連携しながら意思確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所にフローチャートを掲示し研修も実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	訓練の実施、BCPの策定と会議での周知を行っている。 地域との協力体制はまだ弱いと感じているので、行事への参加を通して築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	訪室の際に必ずドアノックをする、馴れ馴れしすぎない言葉遣いを心掛けながら、人生の先輩として尊重している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り傾聴し、希望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	必要に応じて入浴日を変更したり食事の時間をずらしたり等の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	長い髪がお好きな方の髪型やその日の気分にあった服装等ができるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には食事準備や片付けを手伝って頂いている。 毎月のお楽しみ食事会では、ご希望を伺ってメニューを決めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録をつけ、水分が少ない方にはお好みに合った飲み物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方の状態にあわせた声掛けや支援をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	記録や情報共有でパターンや習慣を把握し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取の声掛け、腹部マッサージや体操等を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご希望により午後や日曜日に入浴を実施している。 状態や拒否等で入浴が出来ない場合も足浴や清拭にて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	快適な居室の温度設定、個々の就寝時間に合わせた声掛け、誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	都度医師の助言を受けながら、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々のレクリエーションや散歩、季節のイベント等で支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日には積極的に散歩へ言って頂ける様支援している。 遠方へは、ご家族の支援がある方のみとなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持はお断りしています。 出来る方には、一緒に買い物へ行った際に必要額をお渡しし、会計して頂くようにしていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。操作方法の支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ダイニングや廊下にご入居者様方で作って頂いた季節の飾りを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合うご入居者様の席を近くしたり、ソファを設置し、ゆっくり過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身やご家族様の希望にあったレイアウトに協力したり、写真や飾りをつけて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路にモノを置かない、ご自身で歩かれるのを邪魔することなく見守る等の工夫をしている。		

2024年度

事業所名 ヒューマンライフケア宇奈根グループホーム
 作成日： 2024年 4月 28日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	会議には自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て、更なる地域社会との交流・情報収集を行う事、関係各位との協力体制の確立が期待されます。	自治会、民生委員、地域包括支援センター等の地域の方との協力体制を確立していきます。	2024年度に地域行事等へ積極的に参加したことで、自治会との繋がりはできてきていますので、自治会を通して民生委員さんとの繋がりを構築してまいります。	12ヶ月
2	13	カンファレンスやモニタリングは都度実施していますが、意見やアイデア、ご家族様からの情報収集等が一部スタッフに偏っていますので、全スタッフが意見を持てると良いと思います。	どのスタッフも同様のケアができるチームを目指していきます。	ケアにあたる上で必要なアセスメント・カンファレンスについての指導を先輩スタッフから指導します。指導を受けたスタッフが、実践で活かしながら、自信の後輩スタッフへ指導できる様に育成します。	12ヶ月
3					
4					
5					